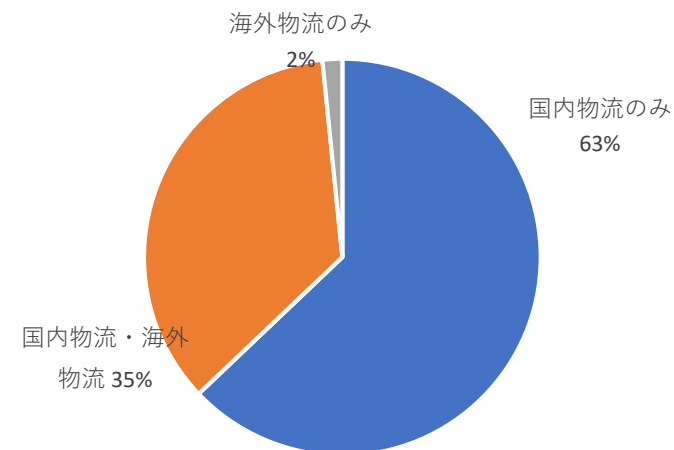


## 物流に係るアンケート調査

対象社数 593 実施日 2019年11月13日～11月29日  
 回答社数 62  
 回答率 10.5%

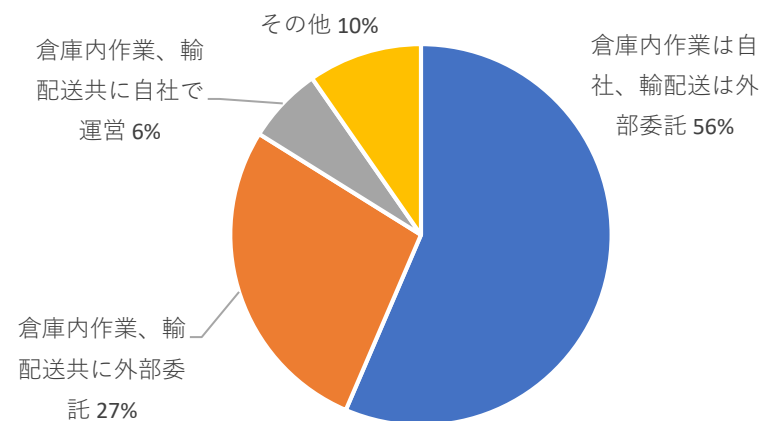
### 設問1 貴社の物流業務についてお聞かせ下さい

	社数	
国内物流のみ	39	63%
国内物流・海外物流	22	35%
海外物流のみ	1	2%
	62	



### 設問2-① 貴社の物流体制についてお聞かせ下さい

	社数	
倉庫内作業は自社、輸配送は外部委託	35	56%
倉庫内作業、輸配送共に外部委託	17	27%
倉庫内作業、輸配送共に自社で運営	4	6%
その他	6	10%
	62	



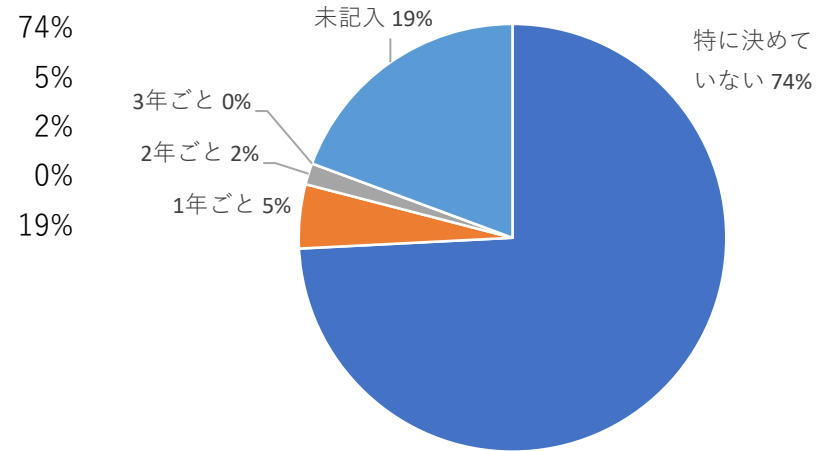
#### 【コメント】

- ・グループ内で物流を運営。
- ・取扱い商品によって自社と外部を使い分けている。
- ・自社主体であるが共配も活用。
- ・東西で自社運営と外部委託を使い分けている。

2-①で物流を外部委託しているとお答えの企業さまにお訪ねします

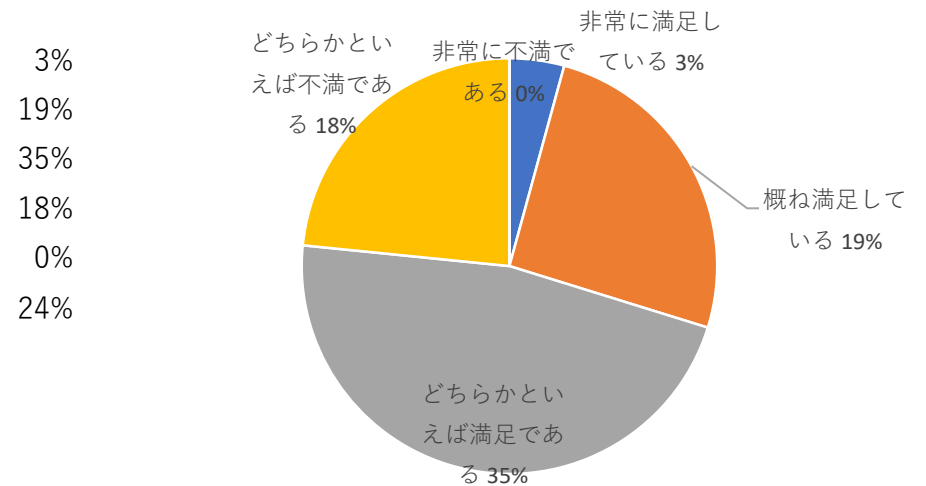
設問2-② 物流委託先の見直し頻度について

	社数
特に決めていない	46
1年ごと	3
2年ごと	1
3年ごと	0
未記入	12
	62



設問2-③ 物流委託先に対する満足度についてお聞かせ下さい

	社数
非常に満足している	2
概ね満足している	12
どちらかといえば満足である	22
どちらかといえば不満である	11
非常に不満である	0
未記入	15
	62

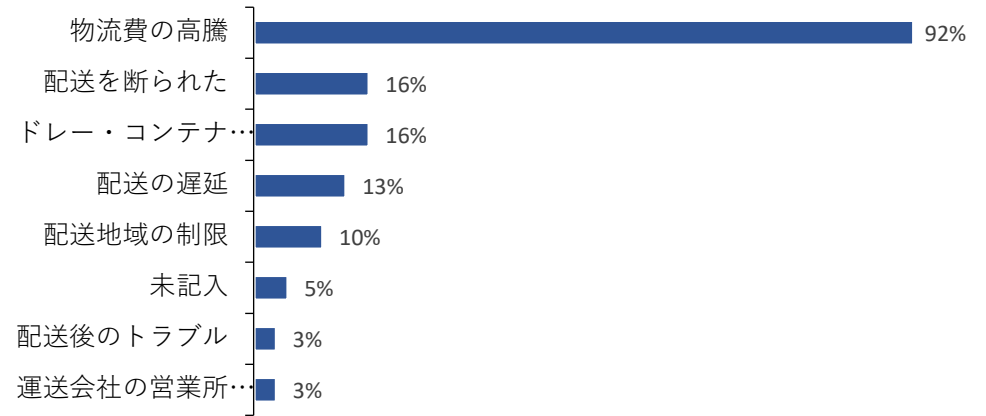


【コメント】 不満とお答えの方は具体的な内容をお聞かせ下さい

- ・ 運送費が上がるのは厳しい。
- ・ 輸配送のコストが高すぎる。
- ・ 物流費の高騰。
- ・ 物流管理費の発生。
- ・ 配送の遅延。
- ・ 足元を見てなのか毎年高くなっている。
- ・ 価格。
- ・ 運送業者の集荷時間が14：00～15：00と早い為、緊急出荷の依頼に対する対応が充分に行えない。
- ・ 運送業者側のタイムスケジュールに合わせなければならない点。例えば午前中の遅い時間に返品商品が届く、また出荷するにも最近、最終集荷時間が早くなっている。
- ・ ここ数年運賃の上昇が激しい。
- ・ 納品、集荷がデジタル化され、控え（書類）がなく管理が煩雑。物流委託先の入力に間に合わず現状把握が出来ない。コンピューターシステムに人が振り回されており、人手不足をより際立たせている。
- ・ 人員不足。運賃高騰。
- ・ 原反の取り扱いの為、1回につき30反位しか積んでもらえない、100反であれば運送便を2～3社に分けるか2～3日かけて配送されている。
- ・ 保管料、仕分料などのコストが高い。

設問3 貴社の物流課題についてお聞かせ下さい。 ※複数回答可

	社数	
物流費の高騰	57	92%
配送を断られた	10	16%
ドレー・コンテナの不足	10	16%
配送の遅延	8	13%
配送地域の制限	6	10%
未記入	3	5%
配送後のトラブル	2	3%
運送会社の営業所の減少	2	3%
その他	2	3%

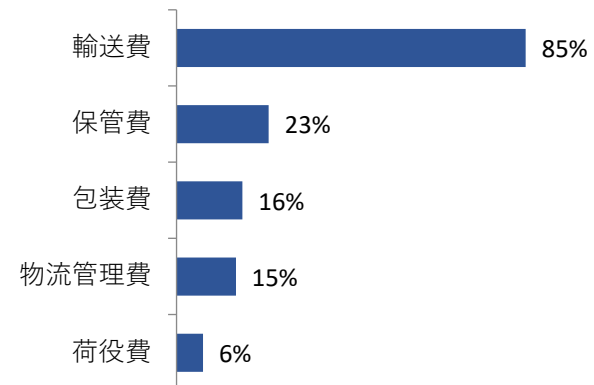


【コメント】

- ・現状を考えると輸送費の高騰とは言えない。販売価格に転嫁できないのが問題。
- ・集荷時間の前倒し。時期により物量変動が大きく、冬物アウター時は場所不足に陥る。
- ・配送委託物の紛失、誤配送。集荷個数の制限。

※物流費の高騰の内訳 ※複数回答可

	社数	
輸送費	53	85%
保管費	14	23%
包装費	10	16%
物流管理費	9	15%
荷役費	4	6%
未記入	3	5%
その他	2	3%



設問4 2019年度の値上げ要請の動向についてお聞かせ下さい ※複数回答可

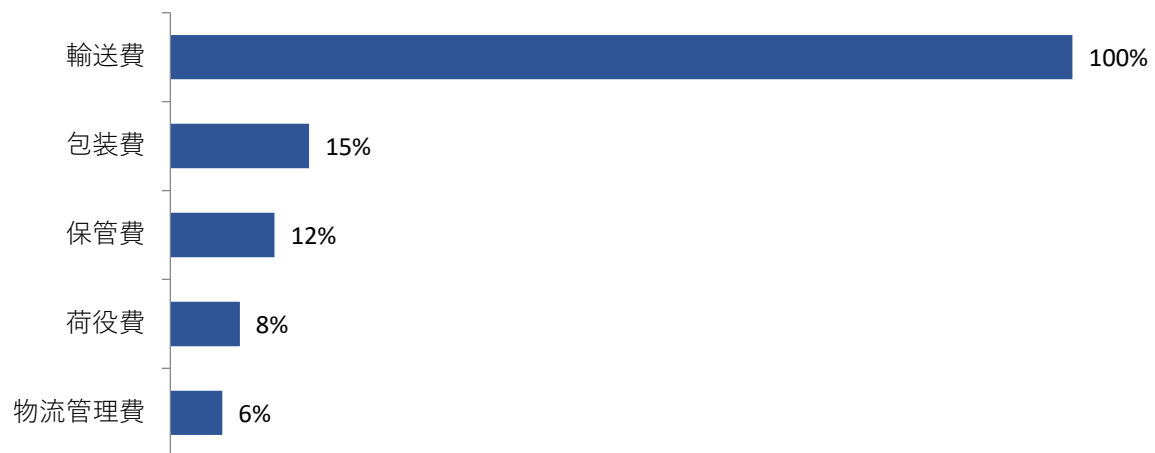
	社 数	
要請された	52	84%
未記入	9	15%

輸送費	52	100%
包装費	8	15%
保管費	6	12%
荷役費	4	8%
物流管理費	3	6%

※要請された値上げ率 2%～270%

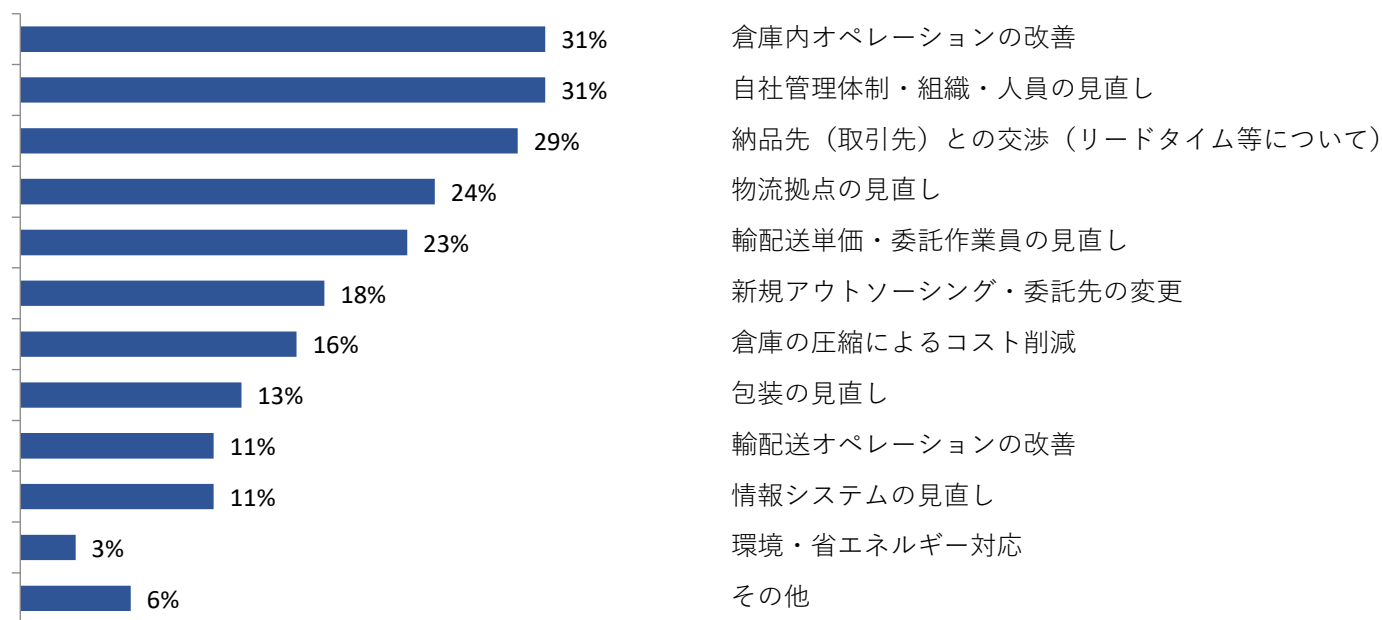
	社 数	
応じた	44	85%

※応じた値上げ率 2%～200%



設問5 物流課題解決に向けた取り組みについて、今後重要と考える取り組みを選択してください。※複数回答可

	社 数	
倉庫内オペレーションの改善	19	31%
自社管理体制・組織・人員の見直し	19	31%
納品先（取引先）との交渉（リードタイム等について）	18	29%
物流拠点の見直し	15	24%
輸配送単価・委託作業員の見直し	14	23%
新規アウトソーシング・委託先の変更	11	18%
倉庫の圧縮によるコスト削減	10	16%
包装の見直し	8	13%
輸配送オペレーションの改善	7	11%
情報システムの見直し	7	11%
環境・省エネルギー対応	2	3%
その他	4	6%
未記入	4	6%



## 【コメント】

- ・ 配送会社との交渉以外ない。
- ・ 得意先からの発注をうけて納品するまで中1～2日の余裕があればトラック不足や倉庫作業員不足に起因する物流トラブルの多くは消えると考えます。業界全体で取り組んで頂きたいです。
- ・ 同一客先、同一先へのオーダーを集約する努力をしている。運賃の一部または全部を客先に負担願う。物流拠点を1ヶ所に集約している為、自然災害に十分な備えに配慮している。
- ・ 流通BMS、JANコード導入を行うことで大幅作業カット。POSシステム導入。
- ・ 反物発送が大阪市内の業者で取り扱ってくれるところが少なくなっているため整理工場に出入りしている業者を使い直送するのが最善なのですが品質管理面でのリスクがあるため現状は出来ていないが、物流課題の解決はまずそこからだと考えています。
- ・ 物流環境について社会的コンセンサスが得られるよう発言を続けていくこと。例えば通常の通信販売で、当日配送等極端な要求をすることは環境にやさしくない、カッコ悪いという視点を皆が持つように公の場で雰囲気作りをしていくことなど。
- ・ たとえばダンボール箱の共同購入のように、関西ファッション連合加入企業共同での運送会社、配送単価交渉、配送キャパシティ確保など、単体の企業では難しい取り組みを進めていく必要を感じる。
- ・ 2019年11月より倉庫を変更しました。
- ・ ピッキング・パッキングの効率化。
- ・ 輸入から各店舗までのワンストップ物流の構築。